

オガサワラアイトトンボ

Indolestes boninensis

※備考 (p. 387)

トンボ目 (蜻蛉目)
アイトトンボ科

小笠原諸島

EN

環境省

CR

【形態・生態】

腹長 33 ～ 41mm。胸の前面や腹部は金属光沢があり、成熟すると体色は青みを帯びる。ほぼ通年出現する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林内の溪流や細流の淵、池に生息する。開けた環境は好まない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では絶滅した。地域絶滅の原因は、主にグリーンアノールの捕食圧であると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行、干ばつが挙げられる。対策は進められており、人工トンボ池による保全は成果を上げている。

【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 苅部治紀, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



ハナダカトンボ

Rhinocypha ogasawarensis

トンボ目 (蜻蛉目)
ハナダカトンボ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

腹長 17 ～ 22mm。鮮やかな赤色で頭部の額の部分が顕著に突出する。出現期は 4 ～ 11 月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林内の溪流や細流の淵、池に生息する。開けた環境は好まない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では絶滅、母島でも激減した。地域絶滅の原因は、主にグリーンアノールの捕食圧であると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行、干ばつが挙げられる。本種については人工トンボ池のような保全対策は有効ではないため、それ以外の手法開発が望まれる。母島では、アカギの駆除後復活した生息地もある。

【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 苅部治紀, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



オガサワライトトンボ

Ischnura ezoin

※備考 (p. 387)

トンボ目 (蜻蛉目)
イトトンボ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

腹長 28 ～ 31mm。体色は黒色で未熟な個体はオレンジ色を帯び、成熟すると鮮やかな水色を帯びる。アオモンイトトンボに似るが、胸に黒条があること、♂では腹部末端が青いことで区別できる。出現期は 4 ～ 11 月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林内の溪流や細流の淵、池に生息する。開けた環境は好まない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島では絶滅した。地域絶滅の原因は主にグリーンアノールの捕食圧であると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行、干ばつが挙げられる。対策は進められており、人工トンボ池による保全は成果を上げている。

【関連文献】

苅部治紀ら, 2004; 苅部治紀, 2009.

(執筆: 苅部治紀)



オガサワラトンボ

Hemicordulia ogasawarensis

トンボ目(蜻蛉目)
エゾトンボ科

小笠原諸島

EN

環境省

CR

【形態・生態】

腹長 35 ～ 44mm。金属光沢のある緑色をしており、類似種はいない。出現期は 4 ～ 11 月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林内の溪流や細流の淵、池に生息する。開けた環境は好まない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

地域絶滅の原因は、主にグリーンアノールの捕食圧であると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行、干ばつが挙げられる。対策は進められており、人工トンボ池による保全は成果を上げている。

【関連文献】

荻部治紀ら, 2004; 荻部治紀, 2009.



(執筆: 荻部治紀)

ベニヒメトンボ

Diplacodes bipunctatus

トンボ目(蜻蛉目)
トンボ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

腹長 19 ～ 22mm。♂では全身赤色、♀では黄褐色。出現期は 4 ～ 11 月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸部にある池に生息し、開放的な環境を好む。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

地域絶滅の原因は、主にグリーンアノールの捕食圧であると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行が挙げられる。対策は進められているものの、さらなる手法開発が望まれる。

【関連文献】

荻部治紀ら, 2004.



(執筆: 荻部治紀)

シマアカネ ※備考 (p. 387)

Bonintheemis insularis

トンボ目(蜻蛉目)
トンボ科

小笠原諸島

EN

環境省

VU

【形態・生態】

腹長 24 ～ 31mm。腹部の大部分は鮮やかな赤色で、末端は黒色。斑紋パターンが似ているコモンヒメハネビロトンボと間違われることがある。出現期は 4 ～ 11 月。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

在来植物が優占する樹林中の溪流や小川の淵部分、池に生息する。開けた環境は好まない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では絶滅し、母島でも絶滅寸前である。地域絶滅の原因は、主にグリーンアノールの捕食圧にであると考えられている。そのほかアカギ、モクマオウ、シュロガヤツリなどの外来植物の侵入による被陰や乾燥化の進行や干ばつも影響を与えている。本種の生息環境は特殊であるため、人工トンボ池のような保全対策は有効ではない。さらなる手法開発が望まれる。母島では、アカギの駆除後復活した生息地もある。

【関連文献】

荻部治紀ら, 2004; 荻部治紀, 2009.



(執筆: 荻部治紀)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は次の文献に準拠した。

尾園暁・川島逸郎・二橋亮, 2012. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 文一総合出版. 531 pp.

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
オガサワラアオイトトンボ	グリーンアノールの捕食圧により、父島では絶滅 (EX) と判定される。
オガサワライトトンボ	グリーンアノールの捕食圧により、父島、母島では絶滅 (EX) と判定される。
シマアカネ	

【関連文献】

荻部治紀, 2009. 小笠原諸島のトンボ目の現状、特に固有種の保全に向けた取り組みについて. 陸水学雑誌, 70: 239-245.

荻部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (12): 65-86.